

科目名 (英)	形成外科学 Plastic Surgery	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	室田 由美子
	学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間
【実務経験】 病院・クリニック・訪問リハ・児童発達支援放課後等デイサービス・特別支援学校・区の発達相談にて言語聴覚士として勤務した経験を持つ。							
【授業の学習内容】 総合病院や訪問リハでの口唇口蓋裂の臨床経験を活かした授業を行う。 検査や治療法の演習を通し、口唇口蓋裂の症例に対応するための基礎知識と評価治療の技術を身につけて欲しい。また、国家試験に出題されやすい部分を重点的に取り扱い、問題演習も豊富に取り入れる。形成外科学や関連分野の国家試験問題に慣れてほしい。							
【到達目標】 ・口唇口蓋裂の分類や評価や治療が分かる。 ・皮膚の基礎知識や形成外科的な治療法の概要が分かる。 ・形成外科学や関連分野の国家試験問題を解くことができる。							
【使用教科書】 ①言語聴覚士テキスト 第3版 ②標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版				【授業外における学習】 復習を頑張ってください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 口唇口蓋裂の分類と手術が分かる。 【授業内容】 口唇裂・顎裂・口蓋裂の分類と、口唇形成術・口蓋形成術について学ぶ。			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 口蓋裂の異常構音や問題が分かる。口蓋裂検査ができる。 【授業内容】 口蓋裂に生じやすい異常構音や、上顎劣成長・滲出性中耳炎・咬合不正などの問題を学ぶ。口蓋裂検査の演習を行う。			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 口蓋裂の評価が分かる。口蓋裂の構音訓練法が分かる。 【授業内容】 構音検査、口腔内視診、鼻咽腔閉鎖機能検査を学ぶ。構音位置づけ法などの治療法やMFTの演習を行う。			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 口腔がん咽頭がんの概要が分かる。口蓋裂などに用いる補綴物が分かる。 【授業内容】 口腔がんや咽頭がんの特徴を学ぶ。舌接触補助床、スピーチバルブ、パラタルリフトなどの補綴について学ぶ。			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 皮膚の基礎知識や形成外科的な治療法の概要が分かる。 【授業内容】 中間テストにてこれまでの学習を復習する。皮膚の解剖や皮弁や外傷・熱傷・褥瘡などの特徴について学ぶ。			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 頭蓋顔面の先天異常や再建術や瘢痕拘縮の概要が分かる。 【授業内容】 トリーチャーコリンズや頭蓋骨縫合早期癒合症について学ぶ。各再建術の特徴、瘢痕とケロイドの違いについて学ぶ。			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 これまでの学習内容を復習し、国家試験に対応できる力を身につける。 【授業内容】 国家試験過去問題を解く。			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 定期試験を通し、これまでの学習を総復習する。 【授業内容】 定期試験および解説授業を行う。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	臨床歯科医学・口腔外科学Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	代田達夫
	Clinical dentistry and Oral surgery Ⅱ	授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 月曜 3・4限
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部						
【実務経験】							
大学卒業後、主に代大学病院及び総合病院にて口腔外科医として勤務、また開業医経験もあり歯科全般を診療してきた。							
【授業の学習内容】							
歯科・歯科口腔外科分野は国試の中では、比重は少ないにも関わらず範囲は広い。したがってすべてを網羅するのは困難であるため、過去問及び予想問題を解いて理解を深めるとともに、周辺知識を網羅することで、自信をもって国試に臨めるような授業を行っていく。							
【到達目標】							
歯や口腔の解剖学的用語を押さえる 歯科口腔外科の中でも特に粘膜疾患の知識を重点的に覚える 口腔の知識を将来実際の臨床現場でつかえるようにする							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学第2版 プリント							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 歯の構造と歯周組織を覚え、その役割を説明できるようにする。また、口腔内構造を理解し、説明できるようにする。 【授業内容】 テキストP6～P22			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 歯・口腔・顎・顔面の発生と発育に関して理解し、説明できるようにする。また、消毒・滅菌・感染予防対策を説明できるようにする。 【授業内容】 テキストP23～P28、P52～P60			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 う蝕、歯髄炎、歯根膜炎、歯周病、口腔ケアを理解し、説明できるようにする 【授業内容】 テキストP66～P92			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 第1回～第3回までの復習、口腔・顎・顔面の先天異常、発育異常及び口腔・顎・顔面の損傷について理解し、説明できるようにする 【授業内容】 中間試験、テキストP94～P113			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 口腔・顎・顔面の疾患及び類似疾患にはどのようなものがあるかを理解し、説明できるようにする 【授業内容】 テキストP94～P145			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 口腔・顎・顔面の疾患及び類似疾患にはどのようなものがあるかを理解し、説明できるようにする 【授業内容】 テキストP94～P145			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 口腔・顎・顔面の疾患及び類似疾患にはどのようなものがあるかを理解し、説明できるようにする。また、咀嚼障害について説明できるようにする 【授業内容】 テキストP96～P105、P164～P180			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 第1回～第7回までの理解度を確認し、第1回～7回までの講義内容を復習する 【授業内容】 定期試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	呼吸発声発語系の構造・機能・病態Ⅱ Physical and Functional Diseases of the Respiratory SystemⅡ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	小林 穂
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 3,4限
【教員実務経験】							
【授業の学習内容】 病院、訪問業界で呼吸発声発語の臨床経験を積んできた教員が、呼吸・発声・発語の構造、機能について理解を深められるように、解剖生理学的知識を習得する授業を行う。具体的には、解剖生理学のイメージを抱けるように実際の言語聴覚療法の動画や音声を活用する。また言語聴覚士として専門用語を適切に使用して説明できることを目標とする。							
【到達目標】 呼吸、発声、発語の構造と機能を図と対比させて、説明ができる。 呼吸機能障害、音声障害、構音障害を説明するための解剖、生理学的な専門知識を取得し、病態を説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 【言語聴覚士のための講義ノート音声系肺・喉頭咽頭・口腔科学】考古堂刊 中野雄一 著				【授業外における学習】 毎回、授業後に復習をすること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 呼吸発声器官の基本構造が説明できる 【授業内容】 気管・気管支・肺の構造と機能 発声器官の構成、臓器の区部、基本構造			9	【到達目標】 喉頭を形成している喉頭の枠組みを説明できる 内喉頭筋・外喉頭筋の作用、内転外転筋を説明できる 【授業内容】 喉頭の枠組み 内喉頭筋・外喉頭筋		
2	【到達目標】 呼吸・発声発語器官の機能について説明できる 【授業内容】 吸気と呼気の作用とメカニズム			10	【到達目標】 内喉頭筋、外喉頭筋の神経支配を説明することができる 発声メカニズムと音声の生理を説明することができる 【授業内容】 喉頭の神経、声帯の構造 発声のメカニズム(声域・声・声位・声区・高さ・強さ・音色)		
3	【到達目標】 呼吸発声発語器官の主な検査について説明できる 排気量分画を説明できる 【授業内容】 呼吸運動の仕組み 換気、肺容量、呼吸量、時間呼吸量			11	【到達目標】 音声障害と疾患(病態)を知り説明できる。 嚙声を実際に聞きGRBAS尺度で評価できる 【授業内容】 GRBAS尺度の聴覚的印象 音声障害の病態、分類と疾患		
4	【到達目標】 肺機能検査(肺気量分画)について説明ができる 拘束性、閉塞性、混合生換気機能障害の違いを知り説明できる 【授業内容】 肺活量、1秒量と1秒率 拘束性、閉塞性、混合生換気機能障害の違い			12	【到達目標】 構音器の基本構造と機能を説明できる 構音とメカニズムを説明できる 【授業内容】 下顎、舌、口唇、口蓋帆の位置と機能、作用 構音器官と言語音、母音、子音		
5	【到達目標】 肺炎の原因、症状を説明出来る COVID(コビット)-19について説明できる 【授業内容】 呼吸器疾患・肺炎の分類、肺炎の特徴 SARS、COVID(コビット)-19の感染経路、症状、死亡率			13	【到達目標】 構音障害と疾患(病態)について説明できる 【授業内容】 構音障害の症状、構音の異常、鼻咽腔共鳴の異常 構音障害の病態		
6	【到達目標】 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の原因、症状について説明ができる 拘束性肺疾患の病態の説明ができる 【授業内容】 慢性気管支炎 肺気腫			14	【到達目標】 構音障害と疾患(病態)について説明できる 【授業内容】 機能的構音障害 運動性構音障害		
7	【到達目標】 免疫関連肺疾患、肺腫瘍の病態の説明ができる 呼吸器、呼吸運動、検査、呼吸疾患について復習ができる 【授業内容】 免疫関連肺疾患 肺腫瘍			15	【到達目標】 これまで学んだ呼吸発声発語の構造、機能、病態について改めて復習し理解を深める 【授業内容】 定期テスト 定期テストの解答解説		
8	【到達目標】 これまで学んだ呼吸器、呼吸運動、検査、呼吸器疾患について復習し中間テストに挑む 【授業内容】 呼吸器、呼吸運動、検査、呼吸器疾患について復習 中間テスト、中間テストの解答、解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	聴覚系の構造機能病態Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	小林 穰
	Physical and Functional Diseases of the Auditory SystemⅡ	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 月曜 1・2限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】							
【授業の学習内容】 聴覚系の構造や機能を理解し、病態が起きた場合の症状について知識を定着させる。							
【到達目標】 聴器の解剖生理について振り返り、問題を解きながら理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学－聴覚障害学 第2版 医学書院				【授業外における学習】 ・予習と復習に力を入れる ・疑問を放置しない			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 外耳、内耳、中耳の構造を定着させ問題を解けるようになる 【授業内容】 聴器の構造①			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 超神経、聴覚中枢の構造を定着させ問題を解けるようになる 【授業内容】 聴器の構造②			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 聴器の機能を定着させ問題を解けるようになる 【授業内容】 聴器の機能			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 前半の授業の内容を定着させる 【授業内容】 中間テスト、前半の振り返り			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 難聴の種類、特徴、平衡障害、その他併発する症状を定着させ問題を解けるようになる 【授業内容】 聴覚系の病態①			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 難聴の種類、特徴、平衡障害、その他併発する症状を定着させ問題を解けるようになる 【授業内容】 聴覚系の病態②			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 難聴の種類、特徴、平衡障害、その他併発する症状を定着させ問題を解けるようになる 【授業内容】 聴覚系の病態③			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 これまでの講義内容について振り返り、知識を定着させる 【授業内容】 定期テスト、総復習			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	神経系の構造・機能・病態Ⅱ Physical and Functional Diseases of the Nervous SystemⅡ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	小林 穰
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 金曜 3限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験あり。							
【授業の学習内容】 脳・脊髄の中樞神経系、末梢神経系は、機能が部位ごとに異なり(機能局在)、決まった経路(伝導路)で連絡している。日常生活を営む上で、どのような機能を果たしているか、その働きを理解するために、基本的構造と機能、病態について、国家試験を意識しながら、学習する。							
【到達目標】 ① 脳・神経疾患の病態や治療を学び、患者の障害像を理解、説明することができる。 ② 神経系の解剖や機能を結び付けて考えることができる。 ③ 神経系の構造・機能・病態Ⅰの内容を再確認する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 中枢神経、末梢神経を取り巻く環境、基本原則を理解し、説明ができる 【授業内容】 ①中枢神経系をとりまく環境 ②中枢神経系と末梢神経系			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 脳と脊髄の構造、機能を理解し、説明ができる。大脳、小脳、脊髄などそれぞれの構造の説明ができる。 【授業内容】 ①大脳、小脳、脳幹 ②脊髄			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 脳と脊髄の構造、機能を理解し、説明ができる。大脳、小脳、脊髄などそれぞれの構造の説明ができる。 【授業内容】			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 脳血管障害の分類、症状などを知り、治療やケア、合併症などを説明することができる。 【授業内容】			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 脳神経の構成を学び、それぞれの神経のしくみ、障害された場合の症状を説明することができる。 【授業内容】			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 運動神経経路、ニューロン、反射、麻痺、症状、感覚を感じるしくみや特徴、伝導路や感覚障害のメカニズムを説明できる。 【授業内容】			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 言語障害、高次脳機能障害の症状、病巣、特徴を説明できる。脳組織の生理的老化や認知症の原因、進行過程、疾患を説明できる。 【授業内容】			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 神経系の構造・機能・病態におけるポイント、総合的な理解を再確認する。 【授業内容】 ① 神経系のまとめ ② 定期試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	臨床心理学Ⅱ	必修 選択	必須	年次	3	担当教員	田島 葵
	Clinical psychologyⅡ	授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分	後期
学科・コース	言語聴覚士科					曜日・時間	金曜 3・4限
【実務経験】 公認心理師として、発達障害児への個別療育やソーシャルスキルトレーニング、保護者への相談支援、スクールカウンセラー等の心理的支援に携わっている							
【授業の学習内容】 国家試験の読解を通じて、臨床実践にかかわる心理学の理論について、体系的に総括する。 国家試験の解法を通じて、臨床場面での素養を醸成してほしい。							
【到達目標】 心の特性や疾患、援助に役立つ理論について国家試験の読解を通じて説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 「言語聴覚士のための心理学」医歯薬出版 国家試験の過去問題は、随時教員が提示する。				【授業外における学習】 心理学の専門的用語がでくるので、予め教科書を読み、予習をしてくること。 分からない用語は、ネット検索を用いて調査してもよい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 類型論を説明できる。特性論を説明できる。 【授業内容】 オリエンテーション、パーソナリティ理論、			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 発達障害を説明できる。不登校、引きこもり、摂食障害、自我同一性の障害を説明できる。 【授業内容】 発達各期における心理臨床			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 精神分析、気分障害、統合失調症を説明できる。心的外傷およびストレス関連障害、パーソナリティ障害、不安症、強迫症を説明できる。 【授業内容】 異常心理			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 おさらいをし、臨床心理学の理解を深める。知能検査を説明できる。 【授業内容】 中間試験(予定)、臨床心理学的アセスメント			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 知能検査を説明できる。発達検査を説明できる。 【授業内容】 臨床心理学的アセスメント			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 パーソナリティ検査、面接、行動観察を説明できる。クライアント中心療法、精神分析療法、遊戯療法を説明できる。 【授業内容】 臨床心理学的アセスメント、心理療法			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 行動療法、認知療法を説明できる。集団心理療法、家族療法を説明できる。 【授業内容】 心理療法			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 臨床心理学のおさらいをし、臨床心理学の理解を深める。 【授業内容】 臨床心理学総括、定期試験(予定)			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 板書したこと等は必ずメモをとること。							

科目名 (英)	生涯発達心理学Ⅱ	必修 選択	必須	年次	3	担当教員	田島 葵
	Life-long Developmental PsychologyⅡ	授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分	後期 金曜 1,2限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 公認心理師として、発達障害児への個別療育やソーシャルスキルトレーニング、保護者への相談支援、スクールカウンセラー等の心理的支援に携わっている							
【授業の学習内容】 国家試験の読解を通じて、心理発達にかかわる心理学の理論について、体系的に総括する。 国家試験の解法を通じて、臨床場面での素養も醸成してほしい。							
【到達目標】 新生児期から老年期における心理機能の仕組みや発達を説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学 第2版 医歯薬出版				【授業外における学習】 心理学の専門的用語がでてくるので、予め教科書を読み、予習をしてくること。 分からない用語は、ネット検索を用いてもよい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 発達の規定要因を説明できる。発達研究法、発達理論を説明できる。 【授業内容】 オリエンテーション、発達の概念			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 知覚・認知の発達を説明できる。運動の発達を説明できる。 【授業内容】 新生児期・乳児期			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 愛着と社会性の発達を説明できる。遊びと認知機能の発達を説明できる。 【授業内容】 新生児期・乳児期・児童期			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 自己・他者認知の発達と仲間関係、保育・学校教育と発達を説明できる。親子関係・友人関係を説明できる。 【授業内容】 幼児期・児童期・青年期			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 自我同一性の確立を説明できる。知的機能の発達を説明できる。 【授業内容】 青年期			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 職業生活、家族生活を説明できる。加齢を説明できる。 【授業内容】 成人期・老年期			14	【到達目標】 【授業内容】 成人期・老年期		
7	【到達目標】 知的機能を説明できる。死への対応を説明できる。 【授業内容】 成人期・老年期			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 定期試験でおさらいをし、生涯発達心理学の理解を深める。 【授業内容】 定期試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）			
【特記事項】 板書したこと等は必ずメモをとること。							

科目名 (英)	言語学Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	鈴木 唯
	LinguisticsⅡ						
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 1・2・3・4限
【実務経験】							
【授業の学習内容】 言語の概念を知り、文法や意味などを科学的な視点から理解し、知識を定着させる。							
【到達目標】 過去問題や模試問題を解きながら、言語学の基本知識を復習し、国家試験に必要な力を身に付ける。							
【使用教科書・教材・参考書】 「言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学 第2版」医学書院				【授業外における学習】 ・予習と復習に力を入れる ・疑問を放置しない			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 言語における記号体系や産生する性質について定着させる 【授業内容】 言語学の基礎			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 音韻規則、音素、音節などの知識を定着させる 【授業内容】 音韻論			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 語の形成、内部構造などの知識を定着させる 【授業内容】 文法論			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 前半の振り返り、語、文、文脈などの意味についての知識を定着させる 【授業内容】 中間テスト、言語学のその他の分野			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 言語学とその他の分野の関わりについての知識を定着させる 【授業内容】 言語学的に見た日本語①			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 言語学とその他の分野の関わりについての知識を定着させる 【授業内容】 言語学的に見た日本語②			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 言語学の国家試験の総復習 【授業内容】 総復習			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 これまでの振り返りを通して、言語学についての理解を定着させる 【授業内容】 定期テスト、講義の振り返り			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	音声学Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	平野 祐紀
	PhoneticsⅡ						
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 木曜 1・2限
【実務経験】							
言語聴覚士として総合病院、リハビリテーション病院、地域リハビリテーションに携わる。他、養成校で非常勤講師を務める。							
【授業の学習内容】							
日本語の音声を中心に、音声を生成する仕組みや音声の特徴、それらに必要な知識を定着させる。							
【到達目標】							
過去問題や模試問題を解きながら、音声学の基本知識を復習し、国家試験に必要な力を身に付ける。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
教科書:「言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学 第2版」医学書院				・国家試験の解説を自力で作れるように学習に励む ・疑問を放置しない			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 発声発語器官の構造、発声の仕組みを定着させる 【授業内容】 音声学の基礎、発声発語器官と発声			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 構音の仕組みなどを定着させる 【授業内容】 発声発語器官と構音			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 国際音声記号や子音の特徴を定着させる 【授業内容】 国際音声記号(子音)			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 国際音声記号や母音の特徴を定着させる 【授業内容】 中間テスト、国際音声記号(母音)			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 分節音、音声連続などの音声現象の知識を定着させる 【授業内容】 分節音			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 アクセントやイントネーションの知識を定着させる 【授業内容】 超分節的特徴			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 日本語の音声現象や特徴を定着させる 【授業内容】 日本語音声学			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 これまでの振り返りを通して、音声学についての理解を定着させる 【授業内容】 定期テスト、講義の振り返り			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	音響学・聴覚心理学Ⅱ Acoustics and Audio PsychologyⅡ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	奥山 裕太
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 水曜 2限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 言語聴覚士として総合病院、リハビリテーション病院、地域リハビリテーションに携わる。他、養成校で非常勤講師を務める。							
【授業の学習内容】 前半で、音の物理的な性質や音声生成、音響理論、言語音の音響的特徴、音声の音響分析などを、後半で、音の知覚や心理学について学習し、知識を定着させる。							
【到達目標】 過去問題や模試問題を解きながら、音響学・聴覚心理学の基本知識を復習し、国家試験に必要な力を身に付ける。							
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:「言語聴覚士のための音響学 2訂版」医歯薬出版 参考書:「ビジュアル音声学」三省堂、配布配布				【授業外における学習】 ・予習と復習に力を入れる ・疑問を放置しない			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 スペクトル、音の要素(音の強さと音圧、デシベル)を理解する。 【授業内容】 音の物理的側面			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 共鳴、音響管、声道共鳴、定在波を理解する。 【授業内容】 音響管の周波数特性			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 線形システム、ソースフィルタ理論を理解する。 基本周波数、ホルマント周波数、母音、子音など言語音の音響的特徴を理解する。 【授業内容】 音声生成の音響理論 言語音の生成と知覚①			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 基本周波数、ホルマント周波数、母音、子音など言語音の音響的特徴を理解する。 【授業内容】 中間テスト、言語音の生成と知覚②			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 アクセントイントネーション、ピッチ曲線を理解する。 サウンドスペクトログラムの見方を理解する。 【授業内容】 超分節的要素の音響的特徴と知覚、音声の音響分析			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 音の心理物理学を理解し問題を解けるようになる 【授業内容】 音の心理物理学			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 聴覚心理学の部やを理解し問題を解けるようになる 【授業内容】 聴覚の周波数分析とマスキング現象/両耳のきこえ/環境と聴覚			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 これまでの振り返りを通して、理解を深め知識を定着させる 【授業内容】 定期試験、授業の振り返り			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語発達学Ⅱ Speech DevelopmentⅡ	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	小澤 佳夜子/山本悠里	
		授業形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	前期 水曜 4限	
学科・コース	言語聴覚士科							
【実務経験】 大学病院、総合病院、通園施設、発達クリニックにて言語聴覚士として勤務した経験を持つ。								
【授業の学習内容】 言語発達障害児に、言語発達検査や知能検査を実施した経験を持つ教員が、定型発達時や正常な言語発達ポイントを解説する。 また、その国家試験問題を実施し解説する。								
【到達目標】 これまでの講義で学んだ小児の先天性・後天性の疾患の概要や特徴、小児の関連法規などを復習し、説明出来る。 定型発達時の正常な言語発達や社会性・運動・身辺自立などの正常発達を復習し説明できる。 また、その国家試験の過去問を解き、国家試験に合格できる知識を身につける事ができる。								
【使用教科書・教材・参考書】 ・「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版」医学書院 ・「言語聴覚士のための基礎知識 小児科学・発達障害学第3版」 医学書院					【授業外における学習】 毎回授業後に学んだ内容の復習をする			
回	授 業 概 要				回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 小児の定型発達や代表的な小児疾患(先天性・後天性)を理解し説明出来る。 また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 小児の定型発達。アブガースコアについて。熱性痙攣やその他の小児疾患について総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。				9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 小児の代表的な小児疾患(先天性・後天性)や遺伝疾患について理解し説明出来る。 また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 てんかんの概要や種類。単一遺伝子病・染色体異常などの概要や発達特徴について総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。				10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 児童福祉に関連する法規や予防接種について理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 関係法規(児童福祉法や学校保健安全施行規則など)や予防接種の概要などの総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。				11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 中間テスト。乳幼児検診の概要についての総復習。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 中間テスト。乳幼児検診の種類、各年齢ごとのポイントの復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。				12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 発達の全体像を理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 前言語期の言語・コミュニケーションの発達特徴などの総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。				13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 発達の全体像を理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 幼児期の言語・コミュニケーションの発達特徴などの総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。				14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 発達の全体像を理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 学童期期の言語・コミュニケーションの発達特徴などの総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。				15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 定期試験を通しこれまでの学習内容と習得度を確認する。 【授業内容】 定期試験および解説授業を行う。				【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】								

科目名 (英)	社会保障制度・関連法規Ⅱ Social Security System・ Related Laws Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	高橋 均
	学科・コース 言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後 期 水曜 3 限
【実務経験】 県職員として、児童相談所、県立病院、リハビリテーションセンターなどでソーシャルワーカー等の社会福祉・医療関連37年間の実務経験を持つ。							
【授業の学習内容】 児童福祉、障害者福祉、医療等の分野で、ソーシャルワーカーやケアワーカーとしての実務経験と、社会福祉士(1997年資格取得)としての活動経験を活かし、さらに社会福祉士国家試験の受験対策の経験を活かしながら授業を進める。							
【到達目標】 ・社会福祉、社会保障制度、関連法規について、これまでの学習を振り返りながら理解を深め、専門職としての実践に役に立つ知識を身につける。 ・国家試験に対応できる力を身につけ、確実に合格する。							
【使用教科書・教材・参考書】 コメディカルのための社会福祉概論第5版(講談社)				【授業外における学習】 普段から社会保障制度問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースをチェックする。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 社会保障制度の概要、公的年金制度、労働保険制度を理解し、国試問題に解答できる。 【授業内容】 社会保障制度の概要 公的年金制度、労働保険制度			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 医療保険制度と医療制度を理解し、国試問題に解答できる。 【授業内容】 医療保険制度と医療医療法 社会福祉の概要			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 社会福祉の法律、機関、施設について理解し、国試問題に解答できる。 【授業内容】 社会福祉の法体系 社会福祉実施機関、社会福祉施設			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 社会福祉援助技術、福祉医療の専門職について理解し、国試問題に解答できる。 【授業内容】 社会福祉の援助と方法 社会福祉と保健医療の専門職			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 障害者(児)福祉制度について理解し、国試問題に解答できる。 【授業内容】 障害者(児)福祉の法律 障害者(児)福祉のサービス			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 高齢者福祉と介護保険制度について理解し、国試問題に解答できる。 【授業内容】 高齢者福祉の法律 介護保険制度			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 公的扶助(生活保護制度)、児童福祉について理解し、国試問題に解答できる。 【授業内容】 公的扶助(生活保護制度) 児童家庭福祉、母子福祉制度			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 これまでの学習の成果を確認する。 【授業内容】 定期試験とその解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚障害診断学Ⅳ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	平野 祐紀
	Diagnosis of Speech and hearing DisabilitiesⅣ	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後 期 金曜 2・3限
学科・コース		言語聴覚士科					
【実務経験】 言語聴覚士として急性期～回復期～生活期の患者さんへリハビリテーションを提供した経験を持つ							
【授業の学習内容】 現場での臨床経験にもとづき、現場で必要とされる知識や技術等を伝えながら実習や国家試験に向けての対策を行っていく。							
【到達目標】 ・前半では実習対策として、成人言語分野の観察ポイント、検査目的、検査解釈、ゴール・プログラム立案、症例報告書の書き方等、実践的な力の向上を図る。 ・後半では国家試験対策として、主に失語症、摂食嚥下障害に関して取り組み、知識の定着を図る。							
【使用教科書・教材・参考書】 明日からの臨床・実習に使える言語聴覚障害診断-成人編 2版 医学と看護社 「言語聴覚療法評価・診断学」医学書院				【授業外における学習】 毎回の授業後に復習を行う。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 評価・診断の過程を理解する 【授業内容】 実習を振り返り、評価～診断までの流れを再学習する			9	【到達目標】 検査結果から、適切な解釈をすることができる 【授業内容】 失語症検査・評価の解釈について		
2	【到達目標】 スクリーニング検査から各種検査の解釈や選定を考える事ができる 【授業内容】 スクリーニング検査の解釈について			10	【到達目標】 失語症掘り下げ検査を検討できる 【授業内容】 失語症掘り下げ検査・評価の解釈について		
3	【到達目標】 検査結果から、適切な解釈をすることができる 【授業内容】 成人構音の評価、解釈について			11	【到達目標】 評価から適切な訓練プログラムを立案できる 【授業内容】 失語症訓練の立案と実施		
4	【到達目標】 評価結果から適切な訓練プログラムを立案できる 【授業内容】 成人構音の訓練立案と実施			12	【到達目標】 国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 過去問題を解き解答を行うことで、知識の定着を図る		
5	【到達目標】 検査結果から、適切な解釈をすることができる(VF) 【授業内容】 摂食嚥下評価、検査の解釈について			13	【到達目標】 国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 過去問題を解き解答を行うことで、知識の定着を図る		
6	【到達目標】 検査結果から、適切な解釈をすることができる(VE) 【授業内容】 摂食嚥下評価、検査の解釈について			14	【到達目標】 症例報告書を作成することができる 【授業内容】 症例報告書の書き方について		
7	【到達目標】 評価から適切な訓練プログラムを立案できる 【授業内容】 摂食嚥下訓練の立案と実施			15	【到達目標】 定期試験を通しこれまでの学習内容と習得度を確認する 【授業内容】 定期試験・解説		
8	【到達目標】 7回までの授業内容を理解し、知識を定着させる 【授業内容】 中間試験・解説 実習振り返り			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	失語症Ⅲ Aphasia Ⅲ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	平野 祐紀
学科・コース	言語聴覚士科	授業形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 金曜 2・3・4限
【実務経験】 大学病院、総合病院、通園施設、発達クリニックにて言語聴覚士として勤務した経験を持つ。							
【授業の学習内容】 医療機関や地域リハビリテーションの現場での臨床経験にもとづき、知識だけでなく現場で必要とされるノウハウ等も伝えながら、国家試験に向けての対策を行っていく。							
【到達目標】 ・前半では実習対策として、失語症についての知識の整理、検査練習、検査の解釈、訓練の立案などを行い、実践的な力の向上を図る。 ・後半では国家試験対策として、出題頻度の高いキーワードをもとに知識の定着を図る。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
「標準言語聴覚障害学 失語症 第3版」医学書院				毎回授業後に学んだ内容の復習をする			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 失語症状について、理解し説明することができる 【授業内容】 失語症状について解説する			9	【到達目標】 失語症の症状・各タイプの特徴を理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 失語症の症状・各タイプに関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する		
2	【到達目標】 失語症に随伴しやすい症状について、理解し説明することができる 【授業内容】 失語症随伴しやすい症状について解説する			10	【到達目標】 「発語失行」「皮質下性失語」について理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「発語失行」「皮質下性失語」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する		
3	【到達目標】 失語症の各タイプについて、理解し説明することができる 【授業内容】 失語症の各タイプについて解説する			11	【到達目標】 「小児失語」「交叉性失語」について理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「小児失語」「交叉性失語」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する		
4	【到達目標】 失語症検査について、それぞれの目的を理解し説明することができる 【授業内容】 失語症検査について解説する			12	【到達目標】 「原発性進行失語」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する 【授業内容】 「原発性進行失語」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する		
5	【到達目標】 検査結果から、問題点を挙げるることができる 【授業内容】 問題点を検討する			13	【到達目標】 「純粋型」「失読失書」について理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「純粋型」「失読失書」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する		
6	【到達目標】 失語症の訓練・支援について、理解し説明することができる 【授業内容】 失語症の訓練・支援について解説する			14	【到達目標】 失語症検査について理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 失語症検査、支援に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する		
7	【到達目標】 事例を用いて、必要な検査を選択し、ゴールやプログラムを立案することができる 【授業内容】 事例検討			15	【到達目標】 定期試験を通しこれまでの学習内容と習得度を確認する 【授業内容】 定期試験・解説		
8	【到達目標】 7回までの授業内容を理解し、知識を定着させる 【授業内容】 中間試験・解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）			
【特記事項】							

科目名 (英)	高次脳機能障害学Ⅲ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	矢澤 一彦
	Higher Brain Dysfunction Ⅲ	授業形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前 期 月曜 3・4限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 大学病院、総合病院、通園施設、発達クリニックにて言語聴覚士として勤務した経験を持つ。							
【授業の学習内容】 医療機関や地域リハビリテーションの現場での臨床経験にもとづき、知識だけでなく現場で必要とされるノウハウ等も伝えながら、国家試験に向けての対策を行っていく。							
【到達目標】 ・高次脳機能障害の各々病態について十分な知識を持ち、評価診断する為の検査を理解し、適切な訓練プログラムを立てることができる ・国家試験に出題頻度の高いキーワードを正しく理解し説明ができる							
【使用教科書・教材・参考書】 「標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版」医学書院				【授業外における学習】 毎回授業後に学んだ内容の復習をする			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 高次脳機能障害の定義、意識・注意、認知機能について理解する 【授業内容】 検査(MMSE-J, HDS-R, kohns立方体組合せテスト, RCPMなど)を通して解説する			9	【到達目標】 「認知症」について理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「認知症」に関する過去問題を解きながら、知識を総復習する		
2	【到達目標】 前頭葉機能について理解する 【授業内容】 検査(FAB, TMT-J, ストループテストなど)を通して解説する			10	【到達目標】 「脳外傷」について理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「脳外傷」に関する過去問題を解きながら、知識を総復習する		
3	【到達目標】 注意障害について理解する 【授業内容】 検査(CAT, 仮名拾いテストなど)を通して解説する			11	【到達目標】 「脳梁離断症状」について理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「脳梁離断症状」に関する過去問題を解きながら、知識を総復習する		
4	【到達目標】 記憶障害について理解する 【授業内容】 検査(S-PA, RBMT, WMS-Rなど)を通して解説する			12	【到達目標】 高次脳機能の各検査について理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 高次脳機能の各検査に関する過去問題を解きながら、知識を総復習する		
5	【到達目標】 空間認知の障害、視覚失認について理解する 【授業内容】 検査(BIT, VPTAなど)を通して解説する			13	【到達目標】 高次脳機能障害の訓練・支援について理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 高次脳機能障害の訓練・支援に関する過去問題を解きながら、知識を総復習する		
6	【到達目標】 失行について理解する 【授業内容】 検査(SPTA)を通して解説する			14	【到達目標】 事例を用いて、必要な検査を選択し、ゴールやプログラムを立案することができる 【授業内容】 事例検討		
7	【到達目標】 症例報告書を作成することができる 【授業内容】 症例報告書の書き方について			15	【到達目標】 定期試験を通しこれまでの学習内容と習得度を確認する 【授業内容】 定期試験・解説		
8	【到達目標】 7回までの授業内容を理解し、知識を定着させる 【授業内容】 中間試験・解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語発達障害学Ⅳ Language Development DisordersⅣ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	中澤 裕也
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 4限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 言語発達障害児に言語聴覚士として、7年程度の勤務経験あり。ポーター早期教育プログラム認定相談員。							
【授業の学習内容】 言語発達障害児に、言語発達検査や知能検査を実施した経験を持つ教員が、検査実施上で重要と考えられるポイントを解説する。 また、その経験を生かして実際の事例を紹介し、検査結果の解釈のポイントを解説する。							
【到達目標】 これまでの講義で学んだ言語発達障害を呈する障害に関しての基礎知識や評価・支援の方法を復習する。 また、その国家試験の過去問を解き、国家試験に合格できる知識を身につける事ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版」医学書院 配布資料				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 自閉症スペクトラム障害の定義、特徴や障害の評価・訓練方法を理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 自閉症スペクトラムの定義(DSM-5等)、言語コミュニケーションの特徴、評価・訓練方法の総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 知的障害の定義、特徴や障害の評価・訓練方法を理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 知的障害の定義(DSM-5等)、言語コミュニケーションの特徴、評価・訓練方法の総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 特異的言語発達障害の定義、特徴や障害の評価・訓練方法を理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 特異的言語発達障害の定義、言語コミュニケーションの特徴、評価・訓練方法の総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 中間テスト。言語発達障害の評価・診断に関する知識を理解し、説明出来る。 【授業内容】 中間テスト。評価・検査法の概要。検査結果の解釈の仕方などの復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 学習障害・ADHDの定義、特徴や障害の評価・訓練方法を理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 学習障害・ADHD、言語コミュニケーションの特徴、評価・訓練方法の総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 脳性麻痺の定義、特徴や障害の評価・訓練方法を理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 脳性麻痺の定義(DSM-5等)、言語コミュニケーションの特徴、評価・訓練方法の総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 言語発達障害への一般的な訓練方法の要点を理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 発達期に沿った訓練方法の概要の復習。語用論的アプローチ、AACなどの総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 定期試験 【授業内容】 筆記試験の実施と解答解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	音声障害Ⅱ Dysphonia	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	小林 穰
		授業 形態	演習	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	前期 金曜 3・4限
【実務経験】 言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験をもつ。							
【授業の学習内容】 音声障害の種類と内容、検査法、及び治療・訓練の理念とその方法を理解してほしい。そのためにも、難解な専門用語や理論を現場経験で身につけた経験を生かし独自の事例や知識を生かして独自資料にまとめ使用すると共に、具体的にわかりやすい質疑を繰り返し、記憶の定着を図る授業を行なっていく。言語聴覚士の役割について授業を展開する。							
【到達目標】 音声障害の評価を理解したうえで間接訓練及び症状対処的音声治療に加え包括的音声治療を理解し実践する。また、その他の取り組みである薬物療法・無喉頭音声・外科的治療を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 使用教科書:発声発語障害学第3版 医学書院。参考書:言語聴覚士のための音声障害学 医歯薬出版。				【授業外における学習】 専門用語が出てくるので事前学習をきちんとし、授業に備える。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 問診と面接練習から開始し声の異常を検出できるようになる。 【授業内容】 音声障害の評価(実技練習)			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 発声行動の行動変容として声の衛生指導の必要性や音声治療の流れを理解する。また、適応条件、終了基準を説明できる。 【授業内容】 音声治療の原理			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 音声治療である症状対処的訓練の特徴を理解し実践できる。 【授業内容】 音声障害の治療(症状対処的訓練)			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 音声治療である包括的訓練の特徴を理解する。 【授業内容】 音声障害の治療(包括的訓練)			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 音声治療である包括的訓練を実践できる。 【授業内容】 音声障害の治療(包括的訓練)を実践			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 音声外科・薬物療法の特徴を理解し説明できる。 【授業内容】 音声外科と薬物療法			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 無喉頭音声としての音源の生成機構と構音器官内へ振動を伝達する方法を整理する。 【授業内容】 無喉頭音声・気管切開とコミュニケーションの問題			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 本試験を通して、音声障害についての理解を定着させる。 【授業内容】 本試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 特記事項無し							

科目名 (英)	運動障害性構音障害Ⅲ DysarthriaⅢ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	矢澤一彦
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 火曜 3・4限
【実務経験】 回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟で、9年間、運動障害性構音障害の患者様へのリハビリテーション経験を持つ							
【授業の学習内容】 回復期リハビリテーション病院で運動性構音障害患者にリハビリテーションを行ってきた経験を持つ教員が、国家試験対策を目的に、出題頻度の高い、タイプ分類、評価法、訓練について、重点的に講義と実技を行う講座を開講する。具体的には、運動性構音障害の基礎知識の振り返りと、評価と治療、訓練法の知識の講義と実技の習得を行う。							
【到達目標】 ・国家試験問題に正答できる知識を身につける ・各検査を正しく理解し、評価できる為の知識と技術を身につける ・各訓練の効果を正しく理解し、適応する対象に実施することができる							
【使用教科書・教材・参考書】 ・標準言語聴覚障害学「発声発語障害学第2版」医学書院 ・ディサースリア臨床標準テキスト 医歯薬出版株式会社				【授業外における学習】 前の講義で学習した内容の復習を行う、特に暗記を指示した内容を覚えてくる。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 AMSDのプロフィールからICFに基づいて問題点の抽出が出来る 【授業内容】 臨床実習に向けて、ディサースリアの評価方法の概要について復習する			9	【到達目標】 障害タイプ別に病巣、疾患名、神経症状、発話症状を説明することができる 【授業内容】 国家試験要点講義：障害タイプ別に病巣、疾患名、神経症状、発話症状をまとめ、運動障害性構音障害の障害像を総復習する		
2	【到達目標】 AMSDの実施時の教示の仕方、留意点を理解し実施できる 【授業内容】 臨床実習に向けて、AMSDの実施方法の復習を実施する			10	【到達目標】 障害タイプ別に病巣、疾患名、神経症状、発話症状を説明することができる 【授業内容】 国家試験要点講義：障害タイプ別に病巣、疾患名、神経症状、発話症状をまとめ、運動障害性構音障害の障害像を総復習する		
3	【到達目標】 AMSDの実施時の教示の仕方、留意点を理解し実施できる 【授業内容】 臨床実習に向けて、AMSDの実施方法の復習を実施する			11	【到達目標】 国家試験に出題される評価について問題の傾向を理解し説明することができる 【授業内容】 国家試験要点講義：運動性構音障害の評価についての国家試験問題を解き、出題傾向を確認する		
4	【到達目標】 AMSDの実施時の教示の仕方、留意点を理解し実施できる 【授業内容】 臨床実習に向けて、AMSDの実施方法の復習を実施する			12	【到達目標】 国家試験に出題される評価について問題の傾向を理解し説明することができる 【授業内容】 国家試験要点講義：運動性構音障害の評価についての国家試験問題を解き、出題傾向を確認する		
5	【到達目標】 問題点に対応するリハビリテーションプログラムの立案が出来る 【授業内容】 グループワーク 評価プロフィールより問題点を抽出してプログラムの立案する			13	【到達目標】 国家試験に出題される評価について問題の傾向を理解し説明することができる 【授業内容】 国家試験要点講義：運動性構音障害の評価についての国家試験問題を解き、出題傾向を確認する		
6	【到達目標】 問題点に対応するリハビリテーションプログラムの立案が出来る 【授業内容】 グループワーク 評価プロフィールより問題点を抽出してプログラムの立案する			14	【到達目標】 国家試験に出題される評価について訓練の傾向を理解し説明することができる 【授業内容】 国家試験要点講義：運動性構音障害の訓練についての国家試験問題を解き、出題傾向を確認する		
7	【到達目標】 問題点に対応するリハビリテーションプログラムの立案が出来る 【授業内容】 グループワーク 評価プロフィールより問題点を抽出してプログラムの立案する			15	【到達目標】 後半の国家試験要点講義にて学んだ知識を用いて模擬問題を解くことができる 【授業内容】 定期試験・解説		
8	【到達目標】 前半で学んだ内容について理解して説明できる 【授業内容】 中間試験・解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	嚥下障害Ⅲ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	矢澤一彦
	DysphagiaⅢ	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分	前期 木曜 3限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟で、9年間、摂食嚥下機能障害の患者様へのリハビリテーション経験を持つ							
【授業の学習内容】 回復期リハビリテーション病院で摂食嚥下機能障害患者様にリハビリテーションを行ってきた経験を持つ教員が、国家試験対策を目的に、出題頻度の高い、タイプ分類、評価法、訓練について、重点的に講義と実技を行う講座を開講する。具体的には、摂食嚥下機能障害の基礎知識の振り返りと、評価と治療、訓練法の知識の講義と実技の習得を行う。							
【到達目標】 ・国家試験問題に正答できる知識を身につける ・各検査を正しく理解し、評価できる為の知識と技術を身につける ・各訓練の効果を正しく理解し、適応する対象に実施することができる							
【使用教科書・教材・参考書】 ・摂食嚥下リハビリテーション第3版				【授業外における学習】 ・授業で学んだ国家試験の問題解答に必要な知識を復習して覚えること			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 「解剖・運動モデル」について適切に説明でき、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「解剖・運動モデル」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する			9	【到達目標】 摂食嚥下にかかわる解剖と生理を理解し適切に説明することができる 【授業内容】 摂食嚥下障害にかかわる解剖と生理メカニズム、嚥下の神経機構、関連筋群について復習する		
2	【到達目標】 「評価(嚥下造影)」について適切に説明でき、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「評価(嚥下造影)」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する			10	【到達目標】 摂食嚥下の簡易検査および総合的検査を理解し適切に実施することができる 【授業内容】 簡易検査、総合的検査について復習する		
3	【到達目標】 「評価(嚥下内視鏡)」について適切に説明でき、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「評価(嚥下内視鏡)」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する			11	【到達目標】 嚥下内視鏡・嚥下造影検査について、動画を見て、評価することができる 【授業内容】 嚥下内視鏡・嚥下造影検査について復習する		
4	【到達目標】 「訓練」について適切に説明でき、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「訓練」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する			12	【到達目標】 間接嚥下訓練について、復習をして、その対象と実施方法と訓練効果について説明できる 【授業内容】 間接嚥下訓練について復習する		
5	【到達目標】 「手術対応」について適切に説明でき、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「手術対応」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する			13	【到達目標】 直接嚥下訓練について、復習をして、その対象と実施方法と訓練効果について説明できる 【授業内容】 直接嚥下訓練について復習する		
6	【到達目標】 「発達・加齢」について適切に説明でき、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「発達・加齢」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する			14	【到達目標】 気管切開の管理と手術的治療について、正しく理解し説明することができる 【授業内容】 気管切開と手術治療について復習する		
7	【到達目標】 「栄養」について適切に説明でき、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「栄養」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する			15	【到達目標】 国家試験の模擬問題を解くことができる 【授業内容】 定期試験・解説		
8	【到達目標】 全7回までの内容を正しく理解し問題に回答することができる 【授業内容】 中間試験・解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	臨床医学 Clinical Medicine	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	小林 穂/柴崎 倭花
学科・コース	言語聴覚士科	授業形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後 期 金曜 3・4限
【実務経験】 大学病院、総合病院、通園施設、発達クリニックにて言語聴覚士として勤務した経験を持つ。							
【授業の学習内容】 医療機関や地域リハビリテーションの現場での臨床経験にもとづき、知識だけでなく現場で必要とされるノウハウ等も伝えながら、国家試験に向けての対策を行っていく。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要な臨床医学について理解することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「リハビリテーションビジュアルブック 第2版」学研 ・「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学第4版」医学書院				【授業外における学習】 毎回の授業後に復習を行う。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 臨床神経学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 臨床神経学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する①			9	【到達目標】 リハビリテーション医学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 リハビリテーション医学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する④		
2	【到達目標】 臨床神経学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 臨床神経学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する②			10	【到達目標】 リハビリテーション医学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 リハビリテーション医学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する⑤		
3	【到達目標】 臨床神経学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 臨床神経学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する③			11	【到達目標】 内科学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 内科学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する①		
4	【到達目標】 臨床神経学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 臨床神経学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する④			12	【到達目標】 内科学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 内科学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する②		
5	【到達目標】 リハビリテーション医学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 リハビリテーション医学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する①			13	【到達目標】 内科学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 内科学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する③		
6	【到達目標】 リハビリテーション医学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 リハビリテーション医学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する②			14	【到達目標】 内科学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 内科学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する④		
7	【到達目標】 リハビリテーション医学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 リハビリテーション医学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する③			15	【到達目標】 定期試験を通しこれまでの学習内容と習得度を確認する。 【授業内容】 定期試験および解説授業を行う。		
8	【到達目標】 7回までの授業内容を理解し、知識を定着させる 【授業内容】 中間試験・解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）			
【特記事項】							

科目名 (英)	解剖学 Anatomy II	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	矢澤一彦
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 1・2限
学科・コース	言語聴覚士						

【実務経験】

回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟で、9年間、神経・筋系の病変による運動障害、感覚障害、高次脳機能障害者のリハビリテーション経験を持つ

【授業の学習内容】

この授業では、人体の構造と機能を理解するために、医用画像(MRI、CT、X線など)を活用しながら解剖学を学びます。特に脳画像を中心に、病巣の位置や広がりを読影し、そこから予測される神経学的障害を推測する力を養います。また、胸部X線やCT画像を用いた呼吸器・循環器系の病変の診断にも取り組みます。

【到達目標】

①人体の基本的な解剖構造を医用画像上で同定できるようになる。②脳画像(MRI・CT)を用いて、病巣の位置を特定し、関連する神経症状を予測できる。③胸部X線およびCT画像から、呼吸器・循環器系の異常を読み取り、疾患の可能性を推測できる。④画像診断に必要な基礎的な読影スキルと、臨床的な思考力を身につける。⑤チームでのディスカッションや症例検討を通じて、他者と協働しながら診断プロセスを進める力を養う。

【使用教科書・教材・参考書】

病気が見える脳神経Vol.7

【授業外における学習】

前の講義で学習した内容の復習を行う、特に暗記を指示した内容を覚えてくる。

回	授 業 概 要	回	授 業 概 要
1	【到達目標】 解剖学と画像診断の基礎□ 【授業内容】 医用画像(MRI・CT・X線)の基本的な特徴を理解し、脳・胸部の主要な解剖構造を画像上で同定できる。	9	【到達目標】 過去問を解く上での考え方、解法を理解できる。 【授業内容】 過去問演習
2	【到達目標】 大脳皮質・脳幹・小脳などの機能局在を理解し、病巣の位置から予測される神経症状を説明できる。 【授業内容】 脳の局在と機能□	10	【到達目標】 過去問を解く上での考え方、解法を理解できる。 【授業内容】 過去問演習
3	【到達目標】 脳梗塞や出血の画像所見を理解し、急性期の脳画像から病変部位と臨床症状を結びつけて説明できる。 【授業内容】 脳血管障害の読影□	11	【到達目標】 過去問を解く上での考え方、解法を理解できる。 【授業内容】 過去問演習
4	【到達目標】 正常な胸部X線画像を読影し、心臓・肺・横隔膜などの構造を識別できる。 【授業内容】 胸部X線の基礎□	12	【到達目標】 過去問を解く上での考え方、解法を理解できる。 【授業内容】 過去問演習
5	【到達目標】 肺炎、気胸、肺結核などの代表的な呼吸器疾患の画像所見を理解し、異常所見を指摘できる。 【授業内容】 呼吸器疾患の画像診断□	13	【到達目標】 過去問を解く上での考え方、解法を理解できる。 【授業内容】 過去問演習
6	【到達目標】 心拡大、うっ血性心不全、大動脈疾患などの画像所見を理解し、疾患の可能性を推測できる。 【授業内容】 循環器疾患の画像診断□	14	【到達目標】 過去問を解く上での考え方、解法を理解できる。 【授業内容】 過去問演習
7	【到達目標】 複数の症例画像をもとに、病変の部位・疾患名・予測される症状をチームで議論し、診断プロセスを説明できる。 【授業内容】 症例ベースの総合演習□	15	【到達目標】 解剖学Ⅲの内容を理解できる 【授業内容】 定期テスト
8	【到達目標】 これまでの学習内容を総合的に振り返り、医用画像を用いた解剖学的理解と臨床的推論力を自己評価できる。 【授業内容】 最終確認とまとめ□	【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)	

【特記事項】

科目名 (英)	言語聴覚総合講座Ⅲ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	矢澤 一彦
	Comprehensive Course for Speech and HearingⅢ	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 月曜 1・2限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟で、9年間、摂食嚥下機能障害の患者様へのリハビリテーション経験を持つ							
【授業の学習内容】 臨床実習Ⅱに向けて症例検討を通じて臨床的思考力を身につける。加えて、国家試験の言語聴覚障害総論の問題を解き、国家試験に対応できるレベルにまで引き上げる。解答や分からない言葉は調べて覚え、答えの丸暗記にならないようにしてほしい。また、専門用語については自身のことばで説明ができることを目指して欲しい。							
【到達目標】 ・臨床実習に臨床的思考力を身につける。 ・吃音や器質性構音障害や機能性構音障害や臨床歯科医学の専門用語を復習し、問題を解くことができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 【教科書】 授業毎に異なるためコマシラバスを確認ください。 【参考書】 ST評価ポケット手帳、言語聴覚士国家試験必修チェック				【授業外における学習】 国家試験過去問題演習では、言語聴覚士国家試験必修チェック(文光堂)を読んでから問題を解くと良い。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 実習生としての望ましい態度が分かる。 【授業内容】 実習指導者様や患者様との関わりで望まれることや、実習に向けた自己課題を考える。			9	【到達目標】 吃音について復習し、国家試験に対応できる力を身につける。① 【授業内容】 吃音の過去問題を解く。		
2	【到達目標】 症例検討ができる。① 【授業内容】 症例の検査結果などから、言語病理学的診断名・問題点・治療方針などを立案する。			10	【到達目標】 吃音について復習し、国家試験に対応できる力を身につける。② 【授業内容】 吃音の過去問題を解く。		
3	【到達目標】 症例検討ができる。② 【授業内容】 症例の検査結果などから、言語病理学的診断名・問題点・治療方針などを立案する。			11	【到達目標】 器質性構音障害について復習し、国家試験に対応できる力を身につける。 【授業内容】 器質性構音障害の過去問題を解く。		
4	【到達目標】 症例検討ができる。③ 【授業内容】 症例の検査結果などから、言語病理学的診断名・問題点・治療方針などを立案する。			12	【到達目標】 機能性構音障害について復習し、国家試験に対応できる力を身につける。 【授業内容】 機能性構音障害の過去問題を解く。		
5	【到達目標】 症例検討ができる。④ 【授業内容】 症例の検査結果などから、言語病理学的診断名・問題点・治療方針などを立案する。			13	【到達目標】 臨床歯科医学・口腔外科学について復習し、国家試験に対応できる力を身につける。① 【授業内容】 臨床歯科医学・口腔外科学の過去問題を解く。		
6	【到達目標】 症例検討ができる。⑤ 【授業内容】 症例の検査結果などから、言語病理学的診断名・問題点・治療方針などを立案する。			14	【到達目標】 臨床歯科医学・口腔外科学について復習し、国家試験に対応できる力を身につける。② 【授業内容】 臨床歯科医学・口腔外科学の過去問題を解く。		
7	【到達目標】 症例検討ができる。⑥ 【授業内容】 症例の検査結果などから、言語病理学的診断名・問題点・治療方針などを立案する。			15	【到達目標】 定期試験を通し、これまでの学習を総復習する。 【授業内容】 定期試験および解説授業を行う。		
8	【到達目標】 中間試験を通し学習内容を復習する。全体構造法が分かる。 【授業内容】 中間試験を行う。全体構造法の身体リズム運動やとなえうたを学ぶ。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							